学生支援を通した大学・地域社会への貢献

～留学生センター相談室（204号室）活動報告～

田　中　京　子　・　柴　垣　　史

はじめに

2004年度から，国立大学が法人化し国立大学法人となった。これまでの活動評価や今後の活動計画のための方法や様式について大学全体で模索が続き，それに取り組むために多くの知恵と時間を要する一年であった。

オリエンテーション，ワークショップや日々の相談活動を通した学生支援を着実に行うとともに，これまでの知識や経験を更に学内の国際化に生かすために学内委員会等での活動に力を入れ，また，地域社会にも貢献すべく，他機関との連携協力を強化することに重点をおいた。相談室204号室は引き続き田中と柴垣が担当し，継続が力となるよう，惰性に陥らないよう，新たな発想を心がけながら教育活動を行った。

１．オリエンテーション：情報提供，信頼関係構築，交流促進

2002年度の調査結果（柴垣・田中，2003年度『留学生センター紀要』，p18－27）をもとに，渡日前から修了後に至るまでの継続型，交流型，日本語・英語併用型オリエンテーションを充実させた。

⑴　渡日前オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）

新入予定の学生が，渡日前から留学生センターのスタッフや学生たちと交流して信頼関係を築いていけるよう，事務室との協力で渡日前情報を作成，郵送した。同内容を電子メールでも発信し，その後新入予定者，学生，スタッフ，等が互いに連絡を取り合った。情報の中には，在学留学生でその期の情報提供者として登録した学生のリスト及び彼らからの渡日にあたってのアドバイスを含めた。多くの新入学生にとって，渡日時には名古屋大学のスタッフや学生の中に既に連絡を取り合っている，知り合いがいる，という状態になった。

⑵　到着後オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）

新入生には，彼らの名古屋到着時に，留学生センターからの歓迎メッセージとその後の予定を記したパンフレットを，宿舎で待つ ACE（Action group for Cross-cultural Exchange）から手渡した。到着翌日（平日）には，地域ボランティアの協力で区役所で外国人登録と国民健康保険加入を行い，この手続きの際使用した新入学生の氏名のカタカナ表記を，ボランティアメンバーがファックスで留学生センターに送付するという方法を続けた。これにより，その後大学で使用するカタカナ表記が，健康保険等に使用する表記と統一できるようになった。

後日留学生センターでオリエンテーションを行った。留学生センターオリエンテーションは，事務室による書類記入，日本語教育メディア・システム開発部門によるコンピュータ室使用説明，相談室による生活関係の説明，日本語コースについての説明を，部門間で連携して行った。

⑶　ワークショップ型オリエンテーション（全学学生対象）

これまでのワークショップ型オリエンテーションを再編すべく，前期は準備期間とし，引越しについての説明会のみ行った。

後期には新たな試みとして，次のような点を変更してワークショップを行なった。

・授業と重ならない時間設定を望むというアンケート結果を取り入れ，これまでと異なる時間を設定した。新学期にはセンター長によるワークショップ，その後，災害対策室との連携で地震に関するワークショップ，そして引越し準備の時期に相談主事によ

る引っ越しオリエンテーションをとり入れ，それ以外は，通常授業がない時期に時間を設定した。留学生センター内で日本語の春季集中講座が開催されている時期の，日本語講座の後の時間に行なうことにより，全学の学生たちが出席しやすいように配慮した。

・講師の交通費や材料費，通訳への謝礼の一部が支出できるよう，わずかではあるが予算を得た。
・連続ワークショップの時期を「日本週間」と名づけ，５回シリーズの配布資料を一冊のパンフレットにまとめて使用した。
・希望する者には受講証明書を発行した。

これまでと同様，ボランティア講師や通訳の協力を得て，日本文化，日本社会について考える機会とし（資料１／２）。日本人学生や外国人研究者，留学生の家族，といった様々な身分の人が参加することによって，交流のきっかけともなるオリエンテーションをめざした。また，言語習得度の異なる人々が参加できるよう，すべてのオリエンテーションを日本語・英語併用で行った。

ほとんどのワークショップでは，講師，通訳，進行役の三者がチェックリストをもとに事前に学外で打ち合わせを行い，内容についての共通理解を持ったうえで当日のセッションに臨んだ。

時間帯の変更により，出席者の顔ぶれはこれまでと異なっていた。これまでは留学生センター所属の学生の出席が多かったのに対し，今回は他部局の学生や家族の参加を得ることができた。この場合事前登録をしないで当日の都合によって参加を決める学生が多いため，事前の参加人数把握ができないという特徴があり，準備する側にとっては難点となった。今後改善しながら，日本語の春季・夏季集中コースの時期に行なう方式を継続する可能性を検討したい。

ワークショップ「日本の習慣とマナー」

ワークショップ「華道」

ワークショップ概要

開催日	トピック	講師	通訳	参加者数
７／13	引越し	松浦まち子（留学生センター）		20名
11／２	日本の技術文化	末松良一（留学生センター）	ヌーワー　エイ（国際開発研究科）	19名
11／16	地震が来る？	災害対策室／田中・柴垣（留学生センター）	ワンゲ　アナンド　ムクンド（日本語・日本文化研修生）	40名
１／18	引越し	松浦まち子（留学生センター）		25名
２／14	日本の伝統衣装　着物	加藤かつ子（駒きもの学苑）	ラジュディープ　セート（国際言文）	14名
２／15	書道	藤井尚美（藤井書道教室）	ストラヒル　イバノフ　バストゥホフ（理学部）	20名
２／16	日本の習慣とマナー	勝山峯子（全日本作法会）	ディーピカ　カウシク（日本語・日本文化研修生）	18名
２／17	日本人のコミュニケーションスタイル	堀江未来（留学生センター）		13名
２／18	華道	大澤万香（八代流）	ディーピカ　カウシク（日本語・日本文化研修生）	19名
				（計188名）

⑷　ホームページ・電子メールによるオリエンテーション（留学生センター所属学生）

ほとんど全ての学生が電子メールアドレスを持ち，宿舎や留学生センターで頻繁にメール交信を行っている状況から，相談室からの情報提供等を電子メールも使用して行ってきた。事務・生活情報を適宜発信し，修了後にも手続き関係の情報，今後の協力願い，などを発信し電子メールの利便性を活用した。電子メールによる情報提供においては，そのコピーを留学生センター内の各自のメールボックスにも配付するようにした。留学生センター全体のホームページ整備の中で，相談室のホームページ充実についても検討している。

２．学生個別教育：相談

相談室での相談活動を，個別教育と位置づけ，名古屋大学の留学生に限らず，在学生や他大学へ進学した学生，地域構成員などの相談に対応した。結果として，多面的に名古屋大学および地域の国際化進展に貢献することをめざした。

⑴　相談時間

これまでと同様，週に７コマから８コマ（１コマは90分）の相談時間を設定し，その時間内は最低限相談に応じることができるようにした。その他の時間も可能な時には開室して相談に応じた。（資料３）

⑵　相談件数

相談室のホームページを見てメールで留学相談や生活相談を発信する人が増え，電子メールによる相談件数が増えている。昨年度急激に増えたインターネット接続に関する相談は今年度は安定し，情報が整理されてきたことがうかがえる。

⑶　相談内容

◆指導教官

組織変革の時期，大学教員は通常にも増して多忙であった。相談内容からは，十分な時間を使って学生と向き合うことができない現状がうかがえる。学生側には，共通言語の問題がある場合にはポイントをまとめて書いて見せながら話すこと，メールで簡単に内容を伝えてから面談すること，などをアドバイスしてきた。

相談件数

相談内容＼相談者	日本語研修生	日本語・日本文化研修生	短期留学生	他学部留学生	他大学留学生	その他	合　計
指導教官	15	0	0	13	10	25	63
勉学	48	13	10	63	0	92	226
帰国・一時帰国	0	0	0	10	0	0	10
入国・在留	0	9	0	41	0	0	50
事務手続き	10	4	0	28	5	0	47
医療・健康	12	20	0	18	2	2	54
家族	21	0	0	36	18	16	91
宿舎	29	0	0	113	59	52	253
適応	5	0	0	26	0	21	52
経済	52	0	0	49	0	10	111
地域交流	0	14	17	16	10	220	277
仕事・アルバイト	0	0	0	0	0	10	10
旅行・クラブ・趣味	0	0	16	15	12	10	53
電話	0	0	0	0	0	0	0
インターネット	0	0	5	9	0	1	15
その他	14	0	0	22	5	9	50
合計	206	60	47	459	121	468	1361

E-mail	556
来訪 /TEL	805
	1361

また時には，感情的になりがちな口調や文の調子を，事実を端的に伝え改善を提案するという建設的な内容にすることをアドバイスすることもあった。交渉方法の文化差や個人差についてあまり意識していない学生や，逆に過剰に敏感になって一歩を踏み出せないで悩む学生があり，コミュニケーションの問題は，どこかで一歩を踏み出すか，譲歩をするか，変化しなければ解決しない問題である。しかしそれは同時に，教員側に必要なことでもある。

◆勉学・研究

留学生相談室がインターネット上にホームページを開設していることから，入学に関する電子メールでの問い合わせが多くあった。また田中が数年前ペルーの元日本留学生の同窓会誌に執筆した記事がインターネット上に公開されているため，これを見て問い合わせをするスペイン語圏の留学希望者も多く，電子メールによる相談件数が増加している。電子メールによる問い合わせの対応に，相談員は時間管理と判断力を求められている。

入学後数ヶ月で退学した学生が数名いた。入学してみて始めて，留学が自分の希望する道ではないことがわかり,進路を変えることにしたというケースである。厳しい選考を通り，様々な事務手続きを踏んで得た奨学金を辞退する場合には，それなりの責任ある行動をするよう指導した。

学内外において異文化理解等の分野で勉強をする学生から外国人留学生へのアンケート調査の協力依頼に関する相談が数件あり，留学生センターで掲示するなどの協力をした。

◆入国・在留

入国･在留については,出入国管理体制の強化に伴って，引き続き厳しい状況となった。つまり，これまでは在留資格認定証明書が発行されることが多かったケースや短期滞在の延長が認められることが多かったケースについて，審査の厳格化によってこれが認められない例が多く見られた。配偶者と子供の呼び寄せが認められずに予定変更を余儀なくされた例が多くあった。相談室としては，友人や先輩など過去の事例を参考にして入国･家族呼び寄せを計画しがちな留学生に，制度や審査基準は常に変更するものであることを伝えるようにしている。

学生が帰国の際，乗継ぎ手続きのトラブルにみまわれ，日本へ強制的に戻されたケースがあった。留学生センター長及び国際課長の迅速な対応により，学生は無事に帰国できたが，母国に着くまで出入国に際しての注意を促す必要があることを再認識させられた。

旅行中に盗難にあった学生があり，パスポート等すべて盗まれた。入国管理局と連絡しながら再入国の支援をした。

◆事務手続き

市・県民税や国民年金について役所から書類を受け取ってその処理について相談に来る学生は多い。税金についても国民年金についても，住民としての自覚を持つよう指導しているが，書類の内容についての説明や記入の援助などには知識や時間が必要である。関係機関と連携しながら進めていきたい。

◆医療・健康

幸いSARSの再流行はなく，関係者は入国・出国を予定通り計画・実施することができた。癌などの深刻な病気と闘う学生は決して少なくない。関係の方たちの協力を受けながら，相談室としても可能な限り支援を続けている。また，精神的に危険な状況になった学生もいたが，幸い献身的な友人たちや関係機関の協力で危機を脱出することができた。

留学ビザの残り期間が１年未満の学生が家族を呼び寄せたところ，予定滞在期間が１年に満たないことから家族が国民健康保険に加入できないという相談があった。今後注意が必要である。

学内外で不審者の出没や路上強盗などの犯罪事件が何件かあり，関係機関により早急に対策がとられた。

◆家族

家族の呼び寄せについて，経済的に扶養される必要がある人以外には家族滞在の在留資格認定証明書が発行されない例が多く，母国で職業を持つ配偶者が，休職して日本で留学生と共に家族滞在するという可能性が少なくなっている。このため，同居を望む配偶者は短期滞在の資格で日本に滞在することになるが，滞在期間の問題はもとより，健康保険に加入できないため通院や入院の際の経済的負担が大きくなる問題がある。このため母国でしっかりした保険に加入してくること，確固たる経済基盤を条件に渡日すること，などが必要となる。しかし実際問題としてこれらは留学生の力を超えることもあり，日本留学の質そのものにも影響を与えることになる。

また，子どもと同居を始めたが，時間的経済的に自分の能力範囲を超え，その結果苦労をし，周りへ無理

な要求をしてしまう学生があった。最近は配偶者を呼ばずに子どもだけ呼んで同居する場合が見られ，この場合の時間管理の重要性を予め認識している必要がある。

一方，学内に保育園が設置されることが決定した。認可保育園と異なり保育料への補助はあまり望めないであろうが，外国籍の家族の特性も考慮したものになるよう，これまで相談に応じてきた経験をふまえた意見を今後も伝えていきたい。

◆宿舎

家主との誤解や考え方の違いについての相談，修繕範囲についての相談等があった。民間宿舎については，家主に何か疑問や問題があればいつでも学生本人に，難しい場合は相談室にも相談できるような信頼関係を築くことを第一とし，文化差からの誤解があるような場合には仲介者として双方の理解を促すよう努めた。おおよそのことは学生たちと家主たちとの話し合いで解決している。

◆適応

学生の人間関係に関して深刻な事例が数件あり，関係機関と調整のうえ，解決へ向けて多くの時間と知恵を使った。

◆経済

授業料免除が受けられない，奨学金が得られないなどの状況で，経済的に苦境にたつ学生からの相談は依然として多い。授業料は学生本人が支払うものであるという基本にたち，経済的に自立するためのアドバイスをしたり，場合によっては休学帰国や中途退学の可能性を検討することもある。一方で，優秀な学生たちに大学独自の奨学金を創設することが，引き続き求められている。

◆地域交流

地域からは，留学生の行事参加協力について相談があり，また留学生からは地域行事について相談がある。今年度は全学の「留学生相談室」が中心となってこの点を強化してコーディネートするようになった。諸機関や学生たちとの連絡は手間や配慮が欠かせない仕事であるため，コーディネートする機関ができたことはたいへん心強いことである。近隣地域や町内会との交流，連携は今後更に進めていく必要があると考えている。

◆仕事・アルバイト

アルバイト先からの支払いについての相談時に支払い明細書を見ると，資格外活動許可の規定時間を越えてアルバイトをしていたことが判明した，ということがあった。学生たちには，規定時間以上の仕事をすることは違法であり，違法行為の中ではたとえ相手側に問題がある事件が起こっても解決が困難になることを認識させるようにしている。これは他の件についても同様であり，法律を遵守することの大切さを伝えている。

◆電話・インターネット

インターネットに関する相談は，サービス会社に関する情報提供を求めるもの，サービス解約に関わる相談が数件あったが，サービス会社における手続きの簡素化から，昨年度の相談件数からみれば激減した。

◆旅行・クラブ・趣味

クラブ紹介，旅行代理店などの情報を求められた。名大のクラブ・サークルについては年度初めに集めたチラシ等の情報をファイルし，閲覧してもらい，クラブ･サークルへの連絡･参加は自己の責任において行ってもらうようにした。しかし，実際に連絡先へコンタクトしても返事がない，言葉の問題からうまく意思が伝えられないこともあり，最初のきっかけをつかむ補助もときには必要となった。

◆その他

家族へ，家族からの送金方法について，郵便の送り方について，クレジットカード申し込みについての質問などがあった。財政貯蓄運用に関心の高い学生もおり，外貨預金等についての情報を求められたこともあった。

日本のみならず世界各地で頻発する大地震により，災害時の対策について関心を寄せる学生も増え，彼らの不安を取り除くためにも名大災害対策室との協力によりワークショップで正しい情報提供に努めた。国内での大地震への関心が高まる中，スマトラ沖地震津波により，学生の家族，知人，友人に甚大な被害が及び精神的・物質的に打撃を受けた学生が多くいた。大家族のうち30名が亡くなった，友人が40名亡くなった，など想像を絶する状況があり，母国救済のための活動を行う学生もいた。相談室でも活動へのアドバイスや広報など可能なことを行なった。

３．学部・大学院教育：授業

基礎セミナー（学部一年生）向けの「多文化社会を

生きる」を前期に開講し，松浦教授が代表者となって教員チーム（三宅,浮葉,田中）で担当し,柴垣が技術・資料面でサポート，国際言語文化研究科の大学院生がTA として活躍した。入学後すぐの時期に12名という小人数で多文化社会について考え発表する機会を持つのはたいへん意義深いことであると考え，国際交流アドバイジングの仕事で得た知見をできる限り学生たちに還元し共に学ぶことをめざして授業に臨んだ。（詳しくはp.104参照）後期も例年の教養科目「留学生と日本」を継続し，浮葉助教授を代表として松浦･堀江,田中の教員チームで学部２年生および日本語・日本研修留学生の合同授業を担当した。クラスの半数ほどが外国籍の学生，あと半数ほどが日本人学生であり異文化交流の機会となった。今期は日本人学生たちの気付きと積極性が大きく向上したと思われる。（詳しくはp.105を参照）。

また田中は，国際言語文化研究科での「異文化接触とコミュニケーション」の授業を通年で担当した。日本語教育や国際交流の分野で研究者・実践者となる大学院生たちに，国際交流アドバイザーとして培ってきた経験を共有できるよう努めた。15名の受講者の出身国籍は様々で，全員日本語に堪能であったが，第３の言語として英語を共通語として使用し，理解をはかるという実践的な授業を行った。英語を母語とする学生，第一外国語とする学生，第二外国語とする学生，等，様々な言語能力が混在・葛藤する中での討論や活動は非常に興味深いものであった。

４．地域連携：学外講演，文化交流

大学と地域の連携，大学の地域貢献の重要性は益々増大している。学外で生涯学習センターを中心として田中が進めてきた市民向けの講座を，今年度は一部留学生センターとの「連携講座」として行ない，企画の段階から関わりながら職務のひとつとして行なった。

○2004年５月27日，６月10日，６月24日

天白生涯学習センター市民講座「わたしから始まる国際理解」のうち，第２回～５回を留学生センターとの連携講座「ことばと文字で世界を旅する」とし，そのうち１回は名古屋大学を会場にして行った。フランドル語，シンハラ語，ヒンドゥー語を取り上げ，講師を市内大学に在籍する留学生３名，コーディネーターを田中が担当した。企画の段階から相談室が関わり，講師との打ち合わせ，資料作成，当日の進行などを行なった。（参加者26名）

５．学生パートナーシッププログラム

⑴　運営，実施状況

次年度に引き続き，今年度６月末まで専門の知識と経験のある海外留学室のボランティアスタッフ羽柴千都子氏に運営のご助力を頂き，７月から教育交流部門でそのノウハウと運営を引き継いだ。今年度の日本人学生，留学生登録者数，及びマッチング数は下表の通りである。

ホスト（日本人学生）登録者数

	男性	女性	合計
文学部	1（3）	10（7）	11（10）
文学研究科		1	1
教育学部		1	1
法学部	（1）	2（1）	2（2）
経済学部	（1）	5（4）	5（5）
経済学研究科	1（1）		1（1）
情報文化学部	3（2）		3（2）
情報科学研究科	1（1）		1（1）
理学部	1（1）	1（1）	2（2）
多元数理学研究科	2（1）		2（1）
医学部	1		1
医学部保健学科		1（2）	1（2）
工学部	7（3）	2	9（3）
工学研究科	1（2）	（1）	1（3）
合　　計	18（16）	22（16）	40（32）

留学生登録者数

	男性	女性	合計
NUPACE	6	3	9
６ヶ月コース	1		1
１年コース	1	4	5
教育学部		3	3
法学研究科	1	1＊	2
経済学部	1		1
工学部	5		5
生命農学研究科		1	1
言語文化部		1	1
国際言語文化研究科	1	4	5
国際開発研究科	2	1	3
情報科学研究科		1	1
合　　計	18	19	37

（　）は，2004年度にマッチングした数であり，前年度以前に登録した日本人学生のマッチングも数えた。
＊研究員

登録にあたっては，交流目的，趣味などを聞き，できるだけ共通点のある者を紹介するよう試みたが，ホスト側の日本人学生の登録者には，目的の一つとして「外国語（特に英語）のスキルアップ」を希望することが多く，特にパートナーとのコミュニケーション言語に固執する場合，あるいは出身国籍／地域を限定する場合は，留学生パートナーに該当者がいなければ紹介が遅れる旨を伝えた。

登録から６ヶ月以上のパートナー未紹介者に対して，登録状況を報告するとともに，登録継続の意志があるかどうかを確認するための文書を送付した。これは，登録時の学生の興味が変化していないか，学生生活が研究や就職活動なので忙しくなっていないか等を確認するためでもあった。（文書送付者41名に対し，登録継続申し出は５名）

日本人学生の登録者が学部生（特に１，２年生）が多いのに対し，留学生の登録者が大学院レベルの研究生あるいは研究者である場合，マッチングの際に双方の交流目的を再度確認し，年齢差があることを了解してもらった上で紹介をしてきたが，年齢差が大きすぎて日本人学生を紹介できない留学生，研究者がいた。また，昨年度から引き続き，日本人学生登録者数は留学生登録者数を上回ったため，待機者が出た。

⑵　アンケート

これまで，パートナー紹介後，学生から疑問や相談があれば適宜問題解決のためのアドバイスを行ってきたが，プログラムとして積極的なフォローは行っていなかった。プログラムで提供する「交流のきっかけ」が，どのような展開を生み，また，どのような問題点を抱えているのかを知り，今後の効果的なプログラムの改良に役立てるため，今年度にマッチングして在籍している学生にアンケートを実施した。設問とその回答の一部を別表で紹介する。

⑶　プログラムの今後について

１人のパートナー紹介というきっかけから，自由な交流を目指すプログラムとして存在してきたが，登録者の中から「交流の仕方が分からない」「他のプログラム参加者との交流の場が欲しい」という意見が多く寄せられ，パートナー紹介後にも「交流展開」のきっかけや，異文化コミュニケーションについて理解を図

学生パートナーシッププログラム　アンケート結果

（設問）これまでに，どこで，どのような交流をしましたか？
＊毎週一回昼食，週末は飲みにいく。登山等，名古屋観光 ＊顔合わせをかねてお昼を一緒にとっただけ ＊留学生センターで日本語，留学生の母国語の会話 ＊喫茶店でおしゃべり，私の自宅でミニパーティー ＊ I don’t keep contact with him. He disappeared after the first meeting ＊ We played Shogi a couple weeks ago. But we’ve actually only met twice.
（設問）パートナーとなって困ったこと，悩んだことはありますか？あればお聞かせください。また，問題があった時，どのように解消しましたか？
＊こちらが就職活動時期とかさなり，あまり交流がもてずにいて心苦しい ＊日本人は本当にいい人ですけどいつも“また会いましょう”と言うのに，日付を決めるのはいつも私だ。最初に，私は忙しかったから合える時間が少なかったです。後は彼女は忙しくなりました。でも，自分意志でメールを送ってくれませんでした。私のメールに返事をしますけど。私と会うには会ったが２回しかではありませんでした。今は私はメールを待つことにしましたから待っています。
（設問）プログラムに関して皆さんからのアドバイスや意見がありましたら，どんなことでも構いませんので，どうぞお聞かせください。
＊もっと相手からの発信があるとうれしいけれど，こちらの英語力も不十分なのでなんともいいがたい。 ＊１対１の付き合いだとどうしても，息が詰まりがち。プログラムに参加している人たち同士が交流できるような機会があると面白いと思います。こういったアンケートのようなフィードバックをもう少し行うと，お互いの経験の共有の機会になると思います。ネット上の掲示板があると面白いかもしれません。 ＊英語の会話相手を望んでいたが，いないということで残念でした。 ＊ I think it would be better if we could meet more students before setting someone as a partner. Because there are different personalities and some people may not fit each other. ＊ Choose people who are really interested in cultural exchange. ＊欲を言えば，もう少し年齢が近い人の方が良かったかもしれない。（日本人学部生に院・留学生）

るセミナー等を提供する必要性が感じられる。また「１対１」という枠にとらわれず，交流目的や言語能力に応じて，交流の場をグループという形で紹介することも考えられるが，定期的に交流の場を設けること，登録者が全員参加できるイベントを企画するなど，意図的にグループをまとめる人材が必要である。あるいはワークショップ，ボランティア等様々な異文化交流プログラムと連携しながら，一人一人の目的に適う交流の場を提供していくことも必要である。

６．コンピュータ室スーパーバイザー調整

留学生センター内のコンピュータ室のスーパーバイザーとして，所属する学生にコンピュータのシャットダウン，戸締り，建物全体の戸締り，緊急時の連絡等の仕事を依頼した。学生が安全に，責任を持って仕事を行えるよう，相談室でマニュアルを作成し，学生にはチェックリストを提出してもらっている。現在のところ大きな問題はなく，毎日夜10時までの開室が実現している。

７．学内委員会

今年度，田中は学内委員会に多くの時間を割くことになった。

男女共同参画推進委員会の下にある育児支援ワーキンググループでは，学内保育所設置をめざして打ち合わせや視察を行なった。候補地選定のために学内の数箇所を見学，検討したり，他園を見学してその内容や形態を検討したりした。その結果，学内保育園の設置が実現のはこびとなり，更に作業を進めている。国際貢献型という位置づけの当保育園のために，これまで留学生や外国人研究者たちとの相談活動の中で培った知識や経験を生かせるよう願っている。

また，全学同窓会の幹事として広報委員を担当し，今年度のニュースレターの編集まとめ役となった。多様な人々の意見をとり入れ，また多様な同窓生に向けて発信できるニュース作成をめざして，他の委員たちと協力して編集・発行した。これも日常の活動の糧を還元する場となった。

これらの委員会活動を通して，多学部のスタッフと知り合い協働する機会を得たのは，今後の教育指導にとってもたいへん有益なことだったと思う。

しかしながら，様々な活動に関わることによって日常の相談業務が手薄になってはいけない。土台がしっかりし，様々な活動がその土台にもさらに栄養を与えるような工夫が必要である。今年度は通常よりも多く田中が相談室外の仕事を受け持ち，その結果相談室の様々な教育活動を，柴垣が広範囲に担当することになった。超過勤務やサービス残業にならないよう，スタッフの志気も向上し自己実現がはかれるような工夫をしながら活動したい。

おわりに

2004年６月，留学生センター創設時より12年間教育交流部門（元　指導相談部門）を率いてくださってきた三宅政子教授が，バリ島での生活を始めるべく退職された。国際教育交流や学生指導，人間性の育成に関する多くの知見と経験を，大学や国の枠を越えて分かち合ってきてくださった。これまで共に仕事をすることができたことに感謝し，三宅教授から学んだ多くのことを今後に生かしていきたい。

大きな期待，夢，緊張を，世界のいろいろな地域から運んで来る学生たちのエネルギーの大きさとダイナミズムは，驚異的とも言える。そのエネルギーとダイナミズムを受けとりながら相談員も力をもらい，それを還元しながら活動している。

多岐に渡る教育活動を行いながら，研究も進め論文を発表していくという仕事の中で，時間管理・スケジュール管理，特に何を優先し何をあきらめるのかに関わる仕事の位置づけ，また，スタッフ自身の健康管理が非常に重要である。相談員二人は，家族の病気等で欠勤することはあったものの，これまで自身の健康上の理由で欠勤したことはないという誇らしい（？）記録を持つ，が油断はできない。今後も無理のない，着実な，しかもダイナミックで創造的な仕事をしながら教育交流に寄与したい。

資料１

ECIS WORKSHOP 2004-2005

ECIS WORKSHOP

Bridge to Japanese Society

Nagoya University and its region has many people with various cultural backgrounds- some were born and raised here, others came here from different countries for different reasons, such as work and study. Let's enjoy and think about this society where we live together!

Nov. 2, 2004
TIME: 15:00~16:30
PLACE:#201, ECIS NU

"Mono-zukuri"
Japanese Culture in Technology

Yoshikazu SUEMATSU
Director of ECIS
Nagoya University

Nov. 16, 2004
TIME: 15:00~16:30
PLACE:CALE(ECIS NU)

Earthquake is coming!?

Disaster Management Office,
Nagoya University

JAPAN Week
Feb. 14~18, 2005
TIME: 13:30~15:00
PLACE: CALE(ECIS NU)

14(Mon) **"KIMONO" Japanese costume**
Katsuko KATO, Koma Kimono School

15(Tue) **"SHO-DO" Japanese Calligraphy**
Naomi FUJII, Fujii Calligraphy School

16(Wed) **Japanese customs & manners**
Mineko KATSUYAMA

17(Thu) **Characteristics of Japanese Communication Style**
Miki HORIE, ECIS Nagoya Univ.

18(Fri) **"KA-DO" Flower Arrangement**
Banko OSAWA, "Hachidai-ryu"

Education
Center for
International
Students

Jan. 18, 2005
TIME: 15:00~16:30
PLACE:#201, ECIS NU

Moving
How to find an accommodation

Machiko MATSUURA
ECIS, Nagoya University

●PARTICIPATION : 30 persons/session（Sign up in advance, please!）
NU students & their family, NU staff members and community people
(Some sessions are designed for International students.)
●LANGUAGE : English and Japanese
●Detail of each session to be announced on ECIS bulletin board

★★★★★ INTERPRETERS (ENGLISH ⟷ JAPANESE) WANTED!! ★★★★★

CONTACT: Tanaka/Fumi, #204 ECIS Advisor's Office, Education Center for International Students, Nagoya University
【TEL】052-789-5404【E-mail】tanaka@ecis.nagoya-u.ac.jp（Tanaka）【Web-site】http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/advising/

ECIS WORKSHOP 2004-2005

留学センター ワークショップ

「日本社会を楽しもう」

名古屋大学とその地域は、多様な人々と文化の宝庫です。ここで生まれ育った人、いろいろな国から来た人、働いている人、勉強している人、一時的に住んでいる人、一緒に住んでいるこの社会を、共に見つめ考えましょう。

2004年11月16日
時間：15:00~16:30
場所：名大CALE(留学生センター)

「地震に備えよう」
名古屋大学災害対策室

2004年11月2日
時間：15:00~16:30
場所：名大留学生センター-201 室

「ものづくり」
技術における日本文化
末松良一先生
名古屋大学留学生センター長

日本週間
2005年2月14~18日
時間：1330~1500
場所：名大CALE(留学生センター)

14日(月) 「日本の伝統衣装　着物」
加藤かつ子先生　駒きもの学苑

15日(火) 「書道」
藤井尚美先生　藤井書道教室

16日(水) 「日本の習慣とマナー」
鵜山みね子先生

17日(木) 「日本人のコミュニケーションスタイル」
堀江末来先生　名大学留学生センター

18日(金) 「華道」
大澤万吾先生　"小代流"

Education
Center for
International
Students

2005年1月18日
時間：15:00~16:30
場所：名大留学生センター-201 室

「引越し」
新居の探し方
松浦まち子先生
名古屋大学留学生センター

●参加者：各回３０名まで（事前に参加登録してください！）
名古屋大学の在学生とその家族、教職員、地域の方たち（内容によっては、特に留学生を対象とする）
●使用言語：日本語と英語
●各セッションの詳細は、後日留学生センター掲示板でお知らせします

★★★★★ 日本語⟷英語　通訳者募集中 ★★★★★

WORKSHOP 登録先・問合せ先：名古屋大学留学生センター相談室 204（田中・ふみ）
【電話】052-789-5404【E-mail】tanaka@ecis.nagoya-u.ac.jp（田中）【Web-site】http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/advising/

資料２

留学生センターワークショップ　ECIS WORKSHOP

日本週間

(2005年2月14日～18日)

JAPAN WEEK

(14～18 February, 2005)

日本の文化を楽しもう！

Let's enjoy Japanese culture!

2月14日（月）「日本の伝統衣装　着物」
2月15日（火）「書道」
2月16日（水）「日本の習慣とマナー」
2月17日（木）「日本人のコミュニケーションスタイル」
2月18日（金）「華道」
（開催時間・場所：13:30～15:00・留学生センター棟2階 CALE）

Feb.14 (Mon) "KIMONO" Japanese Costume
Feb.15 (Tue) "SHO-DO" Japanese Calligraphy
Feb.16 (Wed) "Japanese Customs & Manners
Feb.17 (Thu) "Characteristics of Japanese Communication Style"
Feb.18 (Fri) "KA-DO" Flower Arrangement
(TIME & PLACE: 13:30～15:00　CALE, 2nd fl. ECIS Bldg.)

名古屋大学留学生センター
Education Center for International Students, Nagoya University

資料３

留学生相談室　相談時間

Advising and Resource Services

● OFFICE HOURS ●

なにか困ったことや質問等、以下の時間に気軽に相談にきてください。
（予約はいりません。）

When you have questions or concerns about anything, feel free to come to talk with one of the advisors at the following office hours.
(No appointment is necessary.)

	11:30～13:00	14:30～16:00
月曜日　Monday	○ (12:15～13:00)	○
火曜日　Tuesday	○	WORKSHOP ＊
水曜日　Wednesday	○	○
木曜日　Thursday	○	○
金曜日　Friday	CLOSED	CLOSED

○印が相談時間です。　○: Advisors are available.
＊　ワークショップが予定されている日の火曜日午後は相談時間はありません。
On the days when workshops are held, no office hours in the afternoon.

電話やE-mailでもどうぞ。
You may contact us via phone or e-mail.

(052)789-5404
tanaka@ecis.nagoya-u.ac.jp　(TANAKA)
shibagak@ecis.nagoya-u.ac.jp (FUMI)

留学生センター相談室(204号室)　ECIS ADVISORS' OFFICE (#204)